

暦の上では『立冬』を迎え、気がつけば 今年も 残すところ ひと月半あまりと になりました。

さて、掲示にて お知らせしておりました通り、本園 前理事長の 山崎 き江先生（享年88歳）が 7日(土)、天へ召されました。約半世紀近く、クリスチャンとして 成田教会に於いて 神様への信仰を 深めながら、初代理事長の 樋崎先生ご夫妻と共に 初期の つのぶえ保育園の 礎を 築いて来られた 先達の一人です。その後は、成田市内の 幼稚園と 保育園で 約40年間 保母として 奉職されました。1998年度4月より 本法人 理事長に就任され、今年5月 辞任されるまで 保育の道を ひとすじに 成田の 幼な子達の 心身の 健全な育成のため、主イエス・キリストを倣い 懸命に歩まれた先生でした。どんな時も「子ども第一」「(神様の) 御手に委ねよ」を 謳い、私達の つたない歩みを、時に厳しく 時に寛大な眼差しと 優しい祈りを 注ぎながら、今まで 温かく 見守り、支え続けて来て下さいました。いつも明るく はつらつとした さわやかな笑顔で、子ども達の 幸せを願い、未来を語っていらした 先生の 熱い志に満ちた その精神と 凜とした姿は、色褪せることなく 私の中に 刻まれ続けることと 思っています。先生の 子どもへの深い愛と 保育者への祈りを しっかりと継いで、皆で 祈りを合わせ、これからも 精一杯 保育の業に 尽力していきたいと 職員一同 心を新たにしております。

「永い間 お疲れ様でした。そして ほんとうに ありがとうございます」と 心からの感謝を込め 山崎先生の魂が 豊かに導かれ、神様の 祝福の中で いつも 安らかに在りますよう お祈り致します。

明日、14日(土)は、つのぶえ保育園の 2015年度の 感謝祭礼拝を 行います。

『1620年の 秋、信仰の自由を求めて イギリスから『メイフラワー号』という船に乗った 清教徒 (ピューリタン) が アメリカ大陸に 渡りました。けれども 見知らぬ土地で 何もわからないまま 疲れ果て、心身が衰弱し 病気で亡くなる者が 相次ぐような過酷な状況に陥り、なす術もなくなって 絶望の中に 苦しんでいました。その様子を 遠くから見守っていた先住民達が心配し、この土地に 適した 穀物や 野菜の 育て方、収穫の方法や 食べ方などを中心に、生き抜くために 必要で 大切な 自然との 関わりについての ルールを 教えてくれました。そのお蔭で 次の年には 驚くばかりの 実りと収穫の時を迎えられました。清教徒達は、大きな喜びに満たされ、先住民達からの 温かな心を 感謝すると共に、何よりも あられる恵みを与えて下さった 天の神様へ 皆で 礼拝を献げました。』この出来事を記念し、世界中のキリスト教会で11月の第4木曜日に 収穫感謝礼拝が行われています。けれども この礼拝には それだけではない深い祈りも 込められています。それは、時を経ていく中で、植民者(清教徒)達の子孫が、最初の 喜びと 感謝を 忘れ、先住民達の 命や 土地を 奪ってしまったという悲しい事実を、永遠に 人として心に刻み続けるべきという 悲しい痛みが 重なっているのです。

命 = 生きること = 食べること・・・私達は 生きるために 多くの命を 毎日毎日 食べています。世の中には モノがあふれ、ある意味「ガマン」というものを 頑張る必要が なくなってきましたが、なぜか それに反し、人の心は 渇き、自らの欲を満たすため、醜い争いや 悲惨な事を 次々に 起こしています。子ども達の 澄み切った 純粋な まなざしを 見つめていますと 神様が この世界に 対して 願っている想いは たったひとつ『共に分かち合う』ことだと、しみじみと思わされます。この世の 幸せも 不幸せも 人の 心の在り方によって 大きく変わるものだと思います。同じ時代に 生まれて『共に生き合う存在が在ること』『その人と同じ出来事を共有できること』『その時に 共感できること』さらに、そのことを喜べる『心が在る』ことに 感謝できるのは、命ある者への 神様からの祝福です。そして、その喜べる心は、乳幼児期に 育れます。だからこそ、私達大人が 分かち合う心をお互いに 大切に 合って 生きることだと思います。自分以外の 存在のために 何が 出来るか 何をしたいかと 一生懸命に 想いやること、それを行いに繋げることが、すべてを与えて下さる 命の源の 神様の愛に 応えること = 生きることなのではないでしょうか。日頃 余裕なく 忙しく 過ごしている私達ですが、それぞれが 生かされている意味に、心静かに立ち返りながら、あられる恵みを 美味しく 分かち合う 礼拝と 会食のひと時を 子ども達と共に 楽しく味わいたいと願っております。どうぞ ご出席下さい。世界中の すべての生きとし生けるものの上に 神様の祝福と平安が 注がれ、皆が 共に 温かな想いを 分かち合い 優しく 慈しみ合い 生き合うことができますように 心からお祈りします。(石田 記)

「わがたましいよ、主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。(詩篇 103:2)」